

かつて日本になかった 三世代共生の街づくりを 目指した暮らしの循環型 「ルナ∞ヴィータ」



三世代の笑顔が広がる。
その温かな心象風景こそ
街づくりの原点

「若い世代、親世代、高齢世代の三世代が同じ街に住んで、安心して暮らすことのできる古き良き日本の温かいコミュニティを育みたい」。この吉村孝文会長の熱い思いを実現したのが三世代共生の街「ルナ∞ヴィータ」(大阪府・吹田市)です。約4万平方メートルの広大な丘陵地を背景に、若い世代は庭付きの戸建て住宅に住み、子どもが独立した親世代は利便性の高いマンション、そして高齢者にはプロの介護を受けながら有料老人ホームに住み替わるという「暮らしの循環型」は、全国初の試みとして注目されました。この地に暮らす家族は永住することで街への愛着が強まり、家族内の「絆」も深まる。スーパの冷めない距離の中で互いの家族が楽しい暮らしを営み、互いの幸せと成長を確かめる。家は「起居寢食」だけの場ではなく人間形成の大切な舞台です。

多様な世代交流で、
家族の心の「絆」を追求

様々な世代の人が気軽に温かく触れ合うことで、心豊かな暮らしを提案。日本人が忘れてかけていた人の原風景がこの街には息づいています。マンション258戸、戸建て87戸、有料老人ホーム98室で構成。広大な公園や緑豊かな緑地が広がり開放感を演出。街全体は住む人にやさしいユニバーサルデザインを導入して安心・安全を確保しています。ゆとり重視の街並みで、特に話題となったのが欧風感覚の戸建てゾーン。歴史と文化を刻み込んだ中世ヨーロッパの建築美が、付加価値を提供し資産づくりに貢献します。

「街全体がひとつの家族という雰囲気を徹底追求しました。この街に住む人がひとつの家族という考えであれば細かなコミュニティが生まれ、それが一番のセキュリティにもつながります」(吉村会長)。人が街をつくり、街が人を育む。こうした暮らしの原点をにらんだ受け皿が、この街の大きなテーマです。